

2023年度 第1回阪大本番レベル模試(文) 国語 採点基準

☆①・②の現代文の配点は、「内容点」(ABC・・・)と「構造点」(XYZ・・・)で構成されます。また、内容点は各条件内に要素(①②③・・・)が3つ以上あり、得点がある場合、満点の範囲内で要素点が1点プラスされます。

I 現代文(評論) 採点基準(合計≒40点)

問一 10点

(模範解答例)

A①〇1点

A②〇1点

A③〇1点

八〇年代に現れた「快樂消費」は、

他者の欲望に準拠せず、

自分の主観的な感情に準拠し、

A④〇1点

A⑤〇1点

A⑥〇1点

また理性的、計画的とはいえない、

活況の中での

積極的な「快樂」志向をもつものであったが、(A6点)

B①〇1点

B②〇1点

九〇年代以降に指摘された欲望の「動物化」は、

バブル崩壊後の長期不況の状況の中から生じた

B③〇1点

「不快」を回避する反応であると解釈できるから。(B3点)

X(分析) AとBの要素に〇↓1点

(内容【9点】+構造【1点】≒10点)

【構造点】

☆Xは、傍線部の理由を説明すべく、(表と裏をなす)〈矛盾しない二条件A、Bに(分析≒分けること)として説明する構造への評価である。ここでは、条件A、Bの要素がそれぞれ一つ以上あれば、この構造の骨組みが成立しているとみなして1点加点。

X(分析) Aの要素+Bの要素 〇1点

◎ 採点のポイント

※内容点の採点のポイントは以下のとおり。ただし、【構造点】X(1点)は、右に示した要素を組み合わせた、また要素の意味内容が成立している場合にのみ加点する。

A「八〇年代に現れた『快樂消費』は、他者の欲望に準拠せず、自分の主観的な感情に準拠し、また理性的、計画的とはいえない、活況の中での積極的な「快樂」志向をもつものであったが、」(6点)

※ 傍線部の理由説明をするための一方の条件。以下の6要素に分けて採点。満点(6点)内で、得点があれば要素点+1点

① 「八〇年代に現れた『快樂消費』は、」の要素。(1点)

○ 「八〇年代に出現した『快樂消費』は、」八〇年代に登場した『快樂消費』のパターンは、」などでも可。

✕ 「八〇年代の『快樂消費』のニュアンスの成分が入っていないならば✕。

② 「他者の欲望に準拠せず、」の要素。(1点)

○ 「他人の欲望に依拠せず、」他者の欲望に準ずることなく、」などでも可。

✕ 「他者の欲望への準拠」の否定のニュアンス成分が入っていないならば✕。

③ 「自分の主観的な感情に準拠し、」の要素。(1点)

- 「自分の感性や感覚に準拠し、」「自己の主観的な感情に依拠し、」などでも可。
- × 「自己の感情(感覚) or 主観に準拠」のニュアンスの成分が入っていない×。

④ 「また理性的、計画的とはいえない、」の要素。(1点)

- 「また理性的とも計画的ともいえない、」「生活の『必要性』に基づくものではない」などでも可。
- × 「理性的 or 計画的(生活の必要性)」の否定ニュアンスの成分が入っていない×。
- × 理由×。

⑤ 「活況の中の」の要素。(1点)

- 「好景気の中での」「バブル(経済)の中での」などでも可。
- × 「活況」のニュアンスの成分が入っていない×。

⑥ 「積極的な『快樂』志向をもつものであったが、」の要素。(1点)

- 「積極的に『快樂』を目指すものであったが、」「積極的な『快樂』消費の志向性をもつものであったが、」などでも可。
- × 「積極的な『快樂』志向」のニュアンスの成分が入っていない×。

B 「九〇年代以降に指摘された欲望の『動物化』は、バブル崩壊後の長期不況の状況の中から生じた「不快」を回避する反応であると解釈できるから。」〈3点〉

※傍線部の理由説明をするための他方の条件。以下の**3要素に分けて採点。満点(3点)内で、得点があれば**

**要素点+1点**

① 「九〇年代以降に指摘された欲望の『動物化』は、」の要素。(1点)

- 「九〇年代以降に注目された欲望の『動物化』は、」「九〇年代以降に特徴的と言われた欲望の『動物化』は、」などでも可。
- × 「九〇年代以降の欲望の『動物化』」のニュアンスの成分が入っていない×。

② 「バブル崩壊後の長期不況の状況の中から生じた」の要素。(1点)

- 「バブル崩壊がもたらした長期不況の中から生じた」「バブル崩壊後の長期不況が生み出した」などでも可。
- × 「バブル崩壊後の(長期)不況」のニュアンス成分が入っていない×。

③ 「『不快』を回避する反応であると解釈できるから。」の要素。(1点)

- 「『不快』回避の反応だと説明できるから。」「『不快』を迂回しようとする対応だと理解できるから。」などでも可。
- × 「『不快』回避の反応だと解釈」のニュアンスの成分が入っていない×。

(模範解答例)

A①〇1点

消費対象の『モノ』から『コト』への転換は、

A②〇1点

A③〇1点

A④〇1点

レジャーの機会を増大させ、

欲望はメディアに支えられる形から、徐々に主観的感覚を基準とした

A⑤〇

「個人化」と多様化へ向かい、

B①〇1点

B②〇1点

B③〇1点

へB3点

さらにバブル崩壊後は、

「自分にこぼし」のような

極めて私事化した多様な消費の形をもたらした。

X〈分析〉AとBの要素に〇↓1点

(内容【8点】+構造【1点】=9点)

【構造点】

☆Xは、傍線部の理由を説明すべく、(表と裏をなす)〈矛盾 しない二条件A、Bに〈分析〓分けること〉として説明する構造への評価である。ここでは、条件A、Bの要素がそれぞれ一つ以上あれば、この構造の骨組みが成立しているとみなして1点加算。

X〈分析〉 Aの要素+Bの要素 〇1点

◎ 採点のポイント

※内容点の採点のポイントは以下のとおり。ただし、【構造点】X(1点)は、右に示した、条件を組み合わせた、また要素の意味内容が成立している場合にのみ加算する。

A「消費対象の『モノ』から『コト』への転換は、『リゾート・ブーム』の中でゴルフ人口の拡大のようなレジャーの機会を増大させ、欲望はメディアに支えられる形から、徐々に主観的感覚を基準とした『個人化』と多様化へ向かい、」(5点)

※ 傍線部の帰結を説明する一方の内容である「バブル期」の帰結の条件。以下の5要素に分けて採点。満点(5点)内で、得点があれば要素点+1点

①「消費対象の『モノ』から『コト』への転換は、」の要素。(1点)

○『モノ』から『コト』への消費対象の転換は、「消費対象の『モノ』から『コト』への移行は、」などでも可。

×「消費対象の『モノ』から『コト』への転換」のニュアンスの成分が入っていないければ×。

②『リゾート・ブーム』の中でゴルフ人口の拡大のようなレジャーの機会を増大させ、」の要素。(1点)

○『リゾート・ブーム』の中でサウナやレストランなども兼ね備えたリッチな『銭湯』の出現のようなレジャーの機会を増大させ、「レーザー光線や『シャンパン・シャワー』で演出された結婚式披露宴などを出現させ、」などでも可。

×「ゴルフ or 銭湯 or 結婚式」の具体例のニュアンスの成分が入っていないければ×。

③「欲望はメディアに支えられる形から、」の要素。(1点)

○「欲望はメディアに依存する形から、「欲望はメディアに準拠する形から、」などでも可。

× 「欲望のメディア依存」の否定のニュアンスの成分が入っていないければ×。

④ 「徐々に主観的感覚を基準とした」の要素。(1点)

○ 「漸次主観的感覚に準拠した」「次第に主観的感情に基づいた」などでも可。  
× 「主観的な感覚を基準」というニュアンスの成分が入っていないければ×。

⑤ 「個人化」と多様化へ向かい、「」の要素。(1点)

○ 「個人化」と多様化へと収斂し、「個人的、かつ多様となり、「などでも可。  
× 「個人化」(と多様化)」のニュアンスの成分が入っていないければ×。

B 「さらにバブル崩壊後は、『自分にごほうび』のような極めて私事化した多様な消費の形をもたらした。」(3点)

※傍線部の帰結を説明する他方の内容である「バブル崩壊後」の帰結の条件。以下の**3要素に分けて採点満点(3点)内**で、**得点があれば要素点+1点**

① 「さらにバブル崩壊後は、「」の要素。(1点)

× 「バブル崩壊後」のニュアンスの成分が入っていないければ×。

② 「自分にごほうび」のような「」の要素。(1点)

○ 「ガーデニングなどのような」「レトロブームなどのような」などでも可。  
× 「癒し系のキラクターゲットズ、ガーデニングなど」「レトロブーム、バーチャル参拝」「デパ地下グルメ、ホテイチの惣菜の持ち帰り」「マイブーム」「自分にごほうび」などの具体例が入っていないければ×(どれか一つの項目の要素が入っていればよい)。

③ 「極めて私事化した多様な消費の形をもたらした。」の要素。(1点)

○ 「あまりに私事化した消費として多様な形であらわれてきた。」「極めて私事的で多様な消費の形を出現させた。」などでも可。  
× 「私事化した(多様な)消費の形」のニュアンスの成分が入っていないければ×。

(模範解答例)

A①〇1点 A②〇1点

A③〇1点

高度成長期には、「現実を『理想』や『夢』に準拠させること」で

現実をそこに向けて改変しようとする意志を

見出せたのに対して、〈A3点〉

B①〇1点 B②〇1点

B③〇1点

B④〇1点

「タイムニールランドでは、内部から外部は不可視化され、

また内部には「時計」がなく、つまりそこには「今」「

B⑤〇1点

B⑥〇1点

だけの内閉的な「快樂空間」と化して、

現実からの準拠を拒否する造りとなっているから。〈B6点

X〈逆説〉 AとBの要素に〇↓1点

(内容【9点】+構造【1点】=10点)

【構造点】

Xは、傍線部の理由を、「高度成長期」における「理想」や「夢」と「現実」の関係と、「タイムニールランド」における「虚構」と「現実」の関係の、〈矛盾〉する二条件に引き裂いて説明していく〈逆説=矛盾を含むこと〉の構造への評価である。ここでは、Aの要素とBの要素がそれぞれ一つ以上あれば、この構造の骨組みが成立していると見て1点加算。

X〈逆説=矛盾を含むこと〉 Aの要素+Bの要素 〇1点

◎ 採点のポイント

※内容点(の採点のポイント)は以下のとおり。ただし、【構造点】X(1点)は、右に示した要素を組み合わせた意味内容が成立している場合にのみ加算する。

A「高度成長期には、現実を『理想』や『夢』に準拠させることで、現実をそこに向けて改変しようとする意志を見出せたのに対して、」〈3点〉

※傍線部の理由説明をするための一方の条件。以下の**3要素に分けて採点。満点(3点)内で、得点があれば要素点+1点**

①「高度成長期には、」の要素。(1点)

×「高度成長期」のニュアンスの成分が入っていないければ×。

②「現実を『理想』や『夢』に準拠させること」で、」の要素。(1点)

○「現実の準拠対象を『理想』や『夢』とすること」で、「『理想』や『夢』に現実を準拠させること」で、「な」なども可。

×「現実を『理想』や『夢』に準拠させる」というニュアンスの成分が入っていないければ×。

③「現実をそこに向けて改変しようとする意志を見出せたのに対して、」の要素。(1点)

○「現実を、そこを目標として改変しようとする意志を引き出したのに対して、」「現実を、そこを目指して変革する意志を見出せたのに対して、」などでも可。

×「現実をそこ」(=『理想』や『夢』)に向けて改変しようとする意志」のニュアンスの成分が入ってなければ×。

B 「デイズニールランドでは、内部から外部は不可視化され、また内部には『時計』がなく、つまりそこは『今ここ』だけの内閉的な『快樂空間』と化して、現実からの準拠を拒否する造りとなっているから。」〈6点〉

※ 傍線部の理由説明をするための、Aとは〈矛盾〉する他方の条件。以下の**6要素に分けて採点。満点（6点）**内で、得点があれば要素点+1点

① 「デイズニールランドでは、」の要素。（1点）

× 「デイズニールランド」の成分が入っていないなければ×。

② 「内部から外部は不可視化され、」の要素。（1点）

○ 「内部から外部は遮断され、」「内部から外部は見えないようにされ、」などでも可。

× 「内部から外部は不可視化」のニュアンスの成分が入っていないなければ×。

③ 「また内部には『時計』がなく、」の要素。（1点）

○ 「また内部からは『時計』が除去され、」「また内部には『時計』が見当たらず、」などでも可。

× 「内部には『時計』がない」というニュアンスの成分が入ってなければ×

④ 「つまりそこは『今ここ』だけの内閉的な」の要素。（1点）

○ 「つまり内閉的な『今ここ』だけの」「そこは即ち『今ここ』だけの内閉的な」などでも可。

× 「『今ここ』だけの内閉的な」というニュアンスの成分が入っていないなければ×。

⑤ 「『快樂空間』と化して、」の要素。（1点）

× 「『快樂空間』」のニュアンスの成分が入っていないなければ×。

⑥ 「現実からの準拠を拒否する造りとなっているから。」の要素。（1点）

○ 「現実からの準拠を拒絶する構造となっているから。」「現実からの準拠を受け入れない仕組みとなっているから。」などでも可。

× 「現実からの準拠を拒否する造り」のニュアンスの成分が入っていないなければ×。

(模範解答例)

A①○1点

A②○1点

A③○1点

A④○

渋谷、池袋、新宿は、

自然の『匂い』も、廃棄物もない

消費社会固有の

「虚構」化した、

A⑤○1点

また体感できる人工的な都市空間であるが、

〈A 5点〉

B①○1点

B②○1点

B③○1点

これらの都市の駅内部から広がる地下街は、

さらに時間も、

東西南北の方位も存在しないような感じを

B①○1点

B④○1点

B⑤○1点

与える構造になっており、人工都市の「虚構」性を、突き詰め、純粹化した空間となっている。〈5点

X〈分析〉AとBに○↓1点

〔内容〕10点〕+構造〕1点〕=11点

【構造点】

☆ Xは、傍線部を、A、Bの〈矛盾〉しない二条件に〈分析〓分けること〉として説明する構造への評価である。ここでは、A、Bの要素がそれぞれ一つ以上あれば、この構造の骨組みが成立しているとみなして1点加算。

X〈分析〓分けること〉 Aの要素+Bの要素 ○1点

◎採点のポイント

※内容点の採点のポイントは以下のとおり。ただし、【構造点】X(1点)は、右に示した要素を組み合わせた意味内容が成立している場合にのみ加算する。

A「渋谷、池袋、新宿は、自然の『匂い』も、廃棄物もない消費社会固有の「虚構」化した、また体感できる人工的な都市空間であるが、」〈5点〉

※傍線部を説明するための一方の条件。以下の5要素に分けて採点。満点(5点)内で、得点があれば要素点+1点

①「渋谷、池袋、新宿は、」の要素。(1点)

○「渋谷、新宿などは、」渋谷などの雑踏は、」などでも可。

×「渋谷(新宿、池袋)など(の雑踏)は、」の成分が入っていないければ×。

②「自然の『匂い』も、廃棄物もない」の要素。(1点)

○「自然の『匂い』もなければ、廃棄物もない」「自然臭もゴミもない」などでも可。

×「自然の『匂い』も、廃棄物もない」というニュアンスの成分が入っていないければ×。

③「消費社会固有の」の要素。(1点)

○「消費社会特有の」「消費社会に特徴的な」などでも可。

×「消費社会固有」のニュアンスの成分が入ってなければ×。

④「虚構」化した、」の要素。(1点)

○「虚構と化した」「虚構としての」などでも可。

×『虚構化』のニュアンスの成分が入ってなければ×。

⑤「また体感できる人工的な都市空間であるが、」の要素。(1点)

○「また体感可能な人工的な都市空間だが、」「体感できる人工都市空間であるが、」などでも可

×「体感できる人工的な都市空間」のニュアンスの成分が入ってなければ×。

B 「これらの都市の駅内部から広がる地下街は、さらに時間も、東西南北の方位も存在しないような感じを与える構造になっており、人工都市の『虚構』性を突き詰め、純粋化した空間となっている。」〈5点

※傍線部を説明するための他方の条件。以下の**5要素に分けて採点。満点(5点)内で、得点があれば要素点+1点**

①「これらの都市の駅内部から広がる地下街は、」の要素。(1点)

○ 「これらの駅の内部から広がっている地下街は、」これらの都市の駅構内から拡張されている地下街は、「などでも可。」

× 「これらの都市の駅内部から広がる地下街」のニュアンス成分が入っていないければ×。

②「さらに時間も、」の要素。(1点)

○ 「加えて時間も、」時間も、「などでも可。」

× 「時間」の成分が入っていないければ×。

③「東西南北の方位も存在しないような感じを与える構造になっており、」の要素。(1点)

○ 「東西南北の方位も感じられないような構造になっており、」方位も存在しない感じを与える仕組みになっており、「などでも可。」

× 「東西南北の方位も存在しないような感じを与える構造」のニュアンスの成分が入っていないければ×。

④「人工都市の『虚構』性を」の要素。(1点)

○ 「人工都市の虚構的性格を」「虚構』としての人工都市の有様を」などでも可。

× 「人工都市の『虚構』性」のニュアンスの成分が入っていないければ×。

⑤「突き詰め、純粋化した空間となっている。」の要素。(1点)

○ 「純粋化した空間となっている。」「突き詰めた形の空間となっている。」などでも可

× 「突き詰めた」「純粋化した空間」のニュアンスの成分が入っていないければ×。



Ⅱ 現代文(小説) 採点基準 (合計35点)

問一 8点

(模範解答例)

A ○1点

くまが、〈A 1点

B ①○1点

B ②○1点

引つ越して蕎麦や葉書を配り、

B ③○1点

親戚を思いだして

B ④○1点

「縁」という言葉を使ったり、自分の呼び方として漢字の「貴方」を好んだりして、

昔気質の所を見せていたし、

〈B 4点

C ①○1点

C ②○1点

また周りにくまがないので、名をなめる必要がないと

理屈っぽい所も見せていたから。〈C 2点

X 〈分析〉 A・B・Cのうち2つの要素に○↓1点

(内容【7点】+構造【1点】=8点)

【構造点】

☆Xは、「私」が傍線部のようにみた理由を、主体のAについて、〈矛盾〉しない二条件B、Cに〈分析〓分けること〉して説明して行く構造への評価である。ここでは、〈条件A、条件Bの要素、条件Cの要素〉の内の二種以上二つ以上があれば、この構造の骨組みが成立しているとみなして1点加点。

X 〈分析〓分けること〉 〈条件A、条件Bの要素、条件Cの要素〉の内の二種以上二つ以上 ○1点

◎ 採点のポイント

※内容点の採点のポイントは以下のとおり。ただし、【構造点】X(1点)は、右に示した要素を組み合わせた意味内容が成立している場合にのみ加点する。

A 「くまが、」〈1点

※傍線部の理由説明をするための主体の条件。

× 「くま」の成分が入っていないければ×。

B 「引つ越して蕎麦や葉書を配り、『わたし』の名字から、『あのこと』の避難時に世話になった『わたし』の親戚を思いだして『縁』という言葉を使ったり、自分の呼び方として漢字の『貴方』を好んだりして、昔気質の所を見せていたし、」〈4点

※ 傍線部の理由説明をすべく、Aについての「大時代」な面を説明する条件。以下の4要素に分けて採点。  
満点(4点)内で、得点があれば要素点+1点。

① 「引つ越して蕎麦や葉書を配り、」の要素。(1点)

○ 「引つ越し蕎麦や葉書を配ったり、」「引つ越し時に蕎麦や葉書を配って回り、」などでも可。

× 「引つ越して蕎麦(や葉書)を配る」のニュアンスの成分が入っていないければ×。

②『わたし』の名字から、『あのこと』の避難時に世話になった『わたし』の親戚を思いだして」の要素。

(1点)

○『わたし』の名字と、「あのこと」の避難時に世話になった『わたし』の親戚とを結びつけて「『わたし』の名字から、「あのこと」の避難時に世話してくれた「わたし」の親戚に思い至り、」などでも可。

×『わたし』の名字と、「あのこと」の避難時に世話になった『わたし』の親戚とを結びつける」というニュアンスの成分が入っていないければ×。

③『縁』という言葉を使ったり、自分の呼び方として漢字の『貴方』を好んだりして、「」の要素。(1点)

○『縁』という言葉使いをしたり、自分の呼び名に漢字の『貴方』を好むと言ったりして、「『縁』という言葉を使ったり、自分を漢字の『貴方』で呼んで欲しいと注文をつけたりして、」などでも可。

×『縁』という言葉を使う○:自分の呼び名に漢字の『貴方』を好むと言う」というニュアンスの成分が入っていないければ×。

④「昔気質の所を見せていたし、」の要素。

×「昔気質」のニュアンスの成分が入っていないければ×。

C「また周りにくまがないので、名をなめる必要がないと理屈っぽい所も見せていたから。」(2点)

※傍線部の理由説明をすべく、Aについての「理屈を好む」面を説明する条件。

①「また周りにくまがないので、名をなめる必要がないと」の要素。(1点)

○「また近隣にくまがないのだから、名をなめる必要がないと」「自分しかくまがないので、名乗る必要はないと」などでも可。

×「周りにくまがないので、名をなめる必要がない」というニュアンスの成分が入っていないければ×。

②「理屈っぽい所も見せていたから。」の要素。(1点)

○「自分の判断を通そうという面も見せていたから。」「話の筋を通そうとする面をみせていたから。」などでも可。

×「理屈っぽい」のニュアンスの成分が入っていないければ×。

(模範解答例)

A①〇1点

「あのこと」のゼロ地点の随分近くで

A②〇1点

「わたし」たちを必ずよけて走る車について

B①〇1点

「わたし」が言う、「わたし」たちが防護服を着ていないからという理由も、

B②〇1点

また累積被曝量や風に関する

B③〇1点

言い訳じみたことも 的外れであり

〈B3点〉

C①〇1点

要するに人間とくまが一緒に歩いていることに

C②〇1点

人々が違和を感じているからだ」と

X〈分析〉A・B・Cのうち2つの要素に〇↓1点

D〇1点

くまは気づいているから。〈D1点〉

Y〈総合〉Dに〇1点

(内容【8点】+構造【2点】=10点)

【構造点】

☆Xは、傍線部の理由説明をすべく、話題のAを〈notP〜butQ〉の構文を成す〈矛盾〉しない二条件B、Cに〈分析〓分けること〉して説明する構造への評価である——notP〜butQの構文は、例えば〈男じゃないよ、女だよ〉のように、not(否定)の成分が入ることによって、〈男じゃないよ〉≠女)となって、〈矛盾〉しない二条件に〈分析〓分けること〉する構造を形成する——。ここでは、**〈Aの要素、Bの要素、Cの要素〉の内二種以上二つ以上あれば、この構造の骨組みが成立しているとみなして1点加点。**

X〈分析〓分けること〉 〈Aの要素、Bの要素、Cの要素〉の内の二種二つ以上 〇1点

☆Yは、B、CをDに〈総合〓まとめること〉して結論づける構造への評価である。ここではDがあれば、この構造の骨組みが成立しているとみなして1点加点。

Y〈総合〓まとめること〉 D 〇1点

◎ 採点のポイント

※内容点の採点のポイントは以下のとおり。ただし、**【構造点】X・Y(各1点)**は、右に示した要素を組み合わせた意味内容が成立している場合にのみ加点する。

A『あのこと』のゼロ地点の随分近くで『わたし』たちを必ずよけて走る車について、〈2点〉

※ 傍線部の理由説明をするための話題の条件。

①『あのこと』のゼロ地点の随分近くで「の要素。」(1点)

○『あのこと』のゼロ地点の随分近く「のあたりで」『あのこと』のゼロ地点のかなり近くで「などでも可。」  
 ×『あのこと』のゼロ地点の近く「のニュアンスの成分が入っていないければ×。」

②『わたし』たちを必ずよけて走る車について、「の要素。」(1点)

○「徐行しながら『わたし』たちを必ずよけて走る車について、「『わたし』たちを必ずよけていく車について、「などでも可。」  
 ×『わたし』たちを必ずよけて走る車」のニュアンスの成分が入っていないければ×。」

B 『わたし』が言う、「わたし」たちが防護服を着ていないからという理由も、また累積被曝量や風に関する言い訳じみたことも的外れであり、」〈3点〉

※傍線部の理由説明をすべく、Aを〈notP〜butQ〉の構文で説明してゆく〈notP〉の条件。以下の**3要素に分けて採点。満点(3点)内で、得点があれば要素点+1点。**

①『わたし』が言う、「わたし」たちが防護服を着ていないからと言う理由も、」の要素。(1点)

○『わたし』たちが防護服を着ていないからと、『わたし』が言う理由も、」『わたし』が感じた、「わたし」たちが防護服を着ていないからかなという言う理由も、」などでも可。

×『わたし』が言う、「わたし」たちが防護服を着ていないからと言う理由」のニュアンスの成分が入っていない×。

②「また累積被曝量や風に関する言い訳じみたことも」の要素。(1点)

○「また累積被曝量貯金の残高や風に関する言い訳じみた理由も」「累積被曝量や風についての言い訳じみた理由も」などでも可。

×「累積被曝量や風に関する言い訳じみたこと」のニュアンスの成分が入っていない×。

③「的外れであり、」の要素。(1点)

○「見当違いであり、」ピントがずれており、」などでも可。

×「的外れ」のニュアンスの成分が入っていない×。

C 「要するに人間とくまが一緒に歩いていることに人々が違和を感じているからだ」と、」〈2点〉

※ 傍線部の理由説明をすべく、Aを〈notP〜butQ〉の構文で説明してゆく〈butQ〉の条件。

①「要するに人間とくまが一緒に歩いていることに」の要素。(1点)

○「人間とくまが一緒に散歩していることに」「端的には人間とくまが一緒にいることに」などでも可。

×「人間とくまが一緒」のニュアンスの成分が入っていない×。

②「人々が違和を感じているからだ」と、」の要素。(1点)

○「受け入れがたいものを人々が感じているからだ」と、「人々がなじみがないものを感じているからだ」と、」などでも可。

×「人々の違和感」のニュアンスの成分が入っていない×。

D 「くまは気づいているから。」〈1点〉

※ B、Cをまとめて結論づける条件。

○「くまは分かっているから」「くまは知っているから。」などでも可。

×「くまは気づいている」のニュアンスの成分が入っていない×。

(模範解答例)

A①〇1点

くまはストロンチウムにもプルトニウムにも強いというような

A③〇1点

しかけながら、二人のうちの一人はくまの顔を正面から見ようとせず、

A④〇1点

もう一人はくまの身体を無遠慮にさわったりしたが、

B①〇1点

B②〇1点

くまが彼らに邪気はないのだろうかといいつつも、内心で怒りを感じているのだろうか、

X〈逆説〉AとBの両方に〇1点

C〇1点

思っていたから、

Y〈総合〉Cに〇1点

(内容【7点】+構造【2点】=9点)

【構造点】

☆Xは、傍線部の理由を、「男二人」の行動Aと、それに対する「くま」の対応Bを、〈矛盾〉する二条件として引き裂いて説明する  
 〈逆説〉矛盾を含むこと〉の構造への評価である。ここでは条件A、Bの要素がそれぞれ一つ以上あれば、この構造の骨組みが成立しているをみなして1点加算。

X〈逆説=矛盾を含むこと〉 Aの要素+Bの要素 〇1点

☆Yは、A、BをCに〈総合=まとめること〉する構造への評価である。ここでは、条件Cがあれば、この構造の骨組みが成立しているをみなして1点加算。

Y〈総合=まとめること〉 C 〇1点

◎ 採点のポイント

※内容点の採点のポイントは以下のとおり。ただし、【構造点】X・Y(各1点)は、右に示した要素を組み合わせ、  
 せた意味内容が成立している場合にのみ加算する。

A「くまはストロンチウムにもプルトニウムにも強いというような、くまをばかにしたような根拠のない話をし  
 かけながら、二人のうちの一人はくまの顔を正面から見ようとせず、もう一人はくまの身体を無遠慮にさわっ  
 たりしたが、」〈4点〉

※傍線部の理由説明をするための「男二人」の側の条件。以下の4要素に分けて採点。満点(4点)内で、得  
 点があれば要素点+1点。

①「くまはストロンチウムにもプルトニウムにも強いというような」の要素。(1点)

○「くまはストロンチウムにもプルトニウムにも耐性があるというような」「くまはストロンチウムにもプ  
 ルトニウムにも負けないというような、」などでも可。

×「くまはストロンチウムにもプルトニウムにも強い」というニュアンスの成分が入っていないければ×。

②「くまをばかにしたような根拠のない話をしかけながら」の要素。(1点)

○「くまを蔑むようないい加減な話をしかけながら」「くまを見下したような根も葉もない話をしかけなが

ら、」などでも可。

× 「くまをばかにしたような根拠のない話」のニュアンス成分が入っていないければ×。

③ 「二人のうちの一人はくまの顔を正面から見ようとせず、」の要素。(1点)

○ 「二人のうちの一人はわたしの表情をちらりとうかがうばかりで、」二人のうち一人はくまの顔をまともに見ようとせず、」などでも可。

× 「二人のうちの一人はくまの顔を正面から見ようとしない」というニュアンス成分が入っていないければ×。

④ 「もう一人はくまの身体を無遠慮にさわったりしたが、」の要素。(1点)

○ 「もう一人はくまの身体を無礼にもさわったりしたが、」もう一人はくまの身体を配慮もなしにさわったりしたが、」

× 「もう一人はくまの身体を無遠慮にさわる」というニュアンスの成分が入っていないければ×。

B 「くまが彼らに邪気はないのだろうといつつも、内心で怒りを感じているのだろうと」〈2点〉

※傍線部の理由説明をするための、Aとは〈矛盾〉する「くま」の側の条件。

① 「くまが彼らに邪気はないのだろうといつつも、」の要素。(1点)

○ 「彼らに悪意はないのだろうとくまは言うが、」くまが彼らに悪気はないのだろうといいながら、」などでも可。

× 「くまが彼らに邪気はないのだろうと言う」というニュアンスの成分が入っていないければ×。

② 「内心で怒りを感じているのだろうと」の要素。(1点)

○ 「内心では怒っているのだろうと」「内心では怒りを禁じ得ないのだろうと」などでも可。

× 「内心での怒り」のニュアンス成分が入っていないければ×。

C 「思っていたから。」〈1点〉

※傍線部の理由説明をすべく、A、Bを「わたし」の所感としてまとめる条件。

○ 「感じたから。」「想像したから。」などでも可。

× 「思っていた」のニュアンス成分が入っていないければ×。

(模範解答例)

A①〇1点

A②〇1点

A③〇1点

「わたし」といい散歩ができ、さらに同じような機会が持てることを喜び、

その上親しい人と別れる時の

A④〇1点

習慣である抱擁もさせてもびりて、歓喜してゐるくまと比べて、

〈A 4点〉

B①〇1点

B②〇1点

感情表現の時にくまが本来の発声に戻ることや、抱擁の時のくまの体の冷たさを感じたことなども相まって

B③〇1点

くまとの距離を冷静に保つてゐることを示唆する効果。〈B 3点〉

X 〈逆説〉 AとBの要素に〇1点 (8点)

(内容【7点】+構造【1点】=8点)

【構造点】

☆Xは、傍線部の表現の効果を、「くま」の〈喜び〉ようAを、冷やす「わたし」の〈冷静さ〉Bをという、〈矛盾〉するに条件に引き裂いて説明する、〈逆説〉矛盾を含むこと。構造への評価である。ここでは、A、Bの要素がそれぞれ一つ以上あれば、この構造の骨組みが成立しているとみなして1点加点。

X 〈逆説〉矛盾を含むこと。 A要素+Bの要素 〇1点

◎採点のポイント

※内容点の採点のポイントは以下のとおり。ただし、【構造点】X(1点)は、右に示した要素を組み合わせた意味内容が成立している場合にのみ加点する。

A『わたし』といい散歩ができ、さらに同じような機会が持てることを喜び、その上親しい人と別れる時の習慣である抱擁もさせてもびりて歓喜してゐるくまと比べて、〈A 4点〉

※傍線部の効果を説明するための、「くま」の側の条件。以下の4要素に分けて採点。満点(4点)内で、得点があれば要素点+1点。

①『わたし』といい散歩ができ、「の要素。(1点)

○『わたし』といい散歩を持つことが出来、「わたし」と楽しい散歩を過ごすことが出来、「などでも可。  
×『わたし』と、いい散歩」のニュアンスの成分が入っていないければ×。

②「さらに同じような機会が持てることを喜び、「の要素。(1点)

○「また同じような機会が約束されたことを喜び、「さらに同じような散歩ができることを喜び、「などでも可。  
×「同じような機会が持てる喜び」のニュアンスの成分が入っていないければ×。

③「その上親しい人と別れる時の習慣である抱擁もさせてもらって」の要素(1点)。

○「さらに親しい人との別れの習慣である抱擁もできて」「加えて親しい人と別れる際の故郷の習慣である抱擁も与えられて」などでも可。

×「親しい人と別れる時の習慣である抱擁」のニュアンス成分が入いなければ×。

④「歓喜してゐるくまと比べて」の要素。(1点)

○「喜んでいるくまと比して」「喜び舞い上がっているくまと比べて」「などでも可。  
×「歓喜してゐるくまと比べる」というニュアンスの成分が入っていないければ×。

B「感情表現の時にくまが本来の発声に戻ることや、抱擁の時のくまの体の冷たさを感じたことなども相まって、くまとの距離を冷静に保っていることを示唆する効果。」〈3点

※ 傍線部の効果を説明するための、Aとは〈矛盾〉する、「わたし」の側の条件。以下の**3要素に分けて採点。満点(3点)内で、得点があれば要素点+1点。**

①「感情表現の時にくまが本来の発声に戻ることや、」の要素。(1点)

○「感情を表現する際にはくま本来の発声に戻ることや、「感情的になるとくまが本来の発声になることや、」などでも可。

×「感情表現の時にくまが本来の発声に戻る」というニュアンスの成分が入っていないならば×。

②「抱擁の時のくまの体の冷たさを感じたことなども相まって、」の要素。(1点)

○「抱擁した時のくまの体の冷たさを感じたことなどとともに、「抱擁の際にくまの冷たい体を感じ取ったことなども重なって、」などでも可。

×「抱擁の時のくまの体の冷たさを感じたこととともに」というニュアンスの成分が入っていないならば×。

③「くまとの距離を冷静に保っていることを示唆する効果。」の要素。(1点)

○「くまと付かず離れずの距離を保っていることを暗示する効果。」「くまとの距離を冷静に維持していること」をほのめかす効果。」などでも可。

×「くまとの距離の冷静な保持を示唆する効果」のニュアンスの成分が入っていないならば×。



Ⅲ 古文 40点

問一 各4点×3＝計12点

(a) 4点

A (1点)

B (1点)

C (1点)

D (1点)

〔模範解答〕

お出ましがあるところへ「御鞆が催される」。

参上せよ「と」。

〔ポイント〕

A 「お出ましがあるところへ」(1点)

※ 「龜山上皇・上皇・新院」という主語は、あってもなくてもよいが、書いてあって間違っている場合は×。

※ 「右府入道の山莊へ」も、あってもなくてもよいが、書いてあって間違っている場合は×。

※ 「お出ましがある」は、「いらっしゃる・おでかけになる」でもよいが、「行く・来る」のように尊敬の意がない場合は×。

※ 「ということでは」から「の」でもよしとする。

B 「御鞆が催されるだろう」(1点)

※ 「御」は、あってもなくてもよい。

※ 「催される」は「行われる・ある」等でもよい。

※ 「べし」は、「さだろう・きっと」にちがいない・はずだ・さうだ」等の推量の訳か、「しることになっている」という予定の訳になつていなければ×。

C 「参上せよ」(1点)

※ 「参りなさい・参上しなさい」等でもよいが、「来い・来なさい」のように謙譲の意がない場合は×。

※ 「べし」は、「せよ・しろ」等の命令の訳か、「しるべきだ」という当然の訳か、「しるほうがよい」等の適當の訳になつていなければ×。

D 「と言って」(1点)

※ **B・Cの両方が正解の場合のみ得点できる。**

※ 「とて」のままや、訳がない場合は×。

※ 「と言って」は「ということ」等でもよい。

(b) 4点

A (1点)

B (1点)

C (1点)

D (1点)

〔模範解答〕

今日は御所にお仕えするお方が

少ないようだ。

御所から退出する

な

〔ポイント〕

A 「今日は御所にお仕えするお方が」(1点)

※ 「今日は」はそのままでもよいが、ない場合は×。

※ 「御所に」はなくてもよい。

※ 「お仕えするお方」は、「仕える人」の意味が汲み取れる解答であればよしとする。

B 「少ないようだ」(1点)

※ 「ようだ」(推定)は、推量の訳「少ないだろう・少なそうだ」や、伝聞の訳「そうだ・と言う・と聞く」でもよしとする。

C 「御所から退出する」(1点)

※ 「御所から」はなくてもよい。

※ 「退出する」という訳、もしくは、「去り申し上げる」のような謙譲表現でない場合は×。

D 「出る」な(1点)

※ 「出るな・いなくなるな・立ち去るな」等の意があればよい。

※ 禁止表現は「～してはいけない・～しないでくれ」等でもよい。

(c) 4点

A (1点)

B (1点)

C (1点)

D (1点)

「模範解答」

それでもなおしびらくは

立ち去らずにいたが、

雨があまりにひどく降る

ので、

「ポイント」

A 「それでも～しびらくは」(1点)

※ Bが正解していない場合は得点できない。

※ 「それでも」は「そのまま・まだ」等でもよく、「やはり」でもよしとすが、「なほ」に相当する訳がない場合は×。

※ 「しびらくは」は、その意がわかる表現であればよいが、「しびし」に相当する訳がない場合は×。

B 「立ち去らずにいたが」(1点)

※ 「立ち去らずにいた」は、「去らなかつた・そこを離れなかつた」等でもよい。

※ 「が」は「けれども」等でもよい。文末が逆接表現になっていない場合は×。

C 「雨があまりにひどく降る」(1点)

※ 「雨(激しく降る)」、もしくは、「ひどく濡れる」の意があればよい。

D 「ので」(1点)

※ 「から・ため」等、原因を説明する表現であればよい。他の表現は×。

問一 6点

A (1点)

B (1点)

C (1点)

「模範解答」

明日見られるとあてにする(と)もできな(い)で、

D (1点)

E (1点)

F (1点)

散ってしまう(と)ような花が

まだ咲いて(い)る(と)も

見たい

「ポイント」

A 「明日見られるとあてにする(と)もできな(い)で」(1点)

※ 「明日」がない場合は×。

※ 「見ることがあてにできない」、もしくは、「花が残っていることがあてにできない」の意があればよい。

※ 「明日は散ってしまうかも知れない」のように、「あてにできない・期待できない」の意がない場合は×。

B 「風の前ではかなく散る花である」(1点)

※「風・花(桜)」の語を使っていないければ×。

※「はかない」、もしくは、「すぐに散る」等、「はかなさ」を言う表現がない場合は×。「風の前の花だ・風で散る花だ」のように、「はかなさ」が表現されていない場合は×。

C 「今日をかぎりに」(1点)

※「今日限り」の意が汲み取れればよい。「今日」がない場合は×。

※「限界・限度」などだけでは×。

D 「散ってしまいそうな花が」(1点)

※「花(桜)」の語と、「散りそうだ・咲くのも(見られるのも)最後だ」の意がない場合は×。

※C「(今日)限り」と、D「咲くのも最後だ」は、「今日で咲くのも最後となる花」のように、一まとまりの説明でもよい。

E 「まだ咲いているうちにその枝を」(1点)

※Dが正解していない場合は得点できない。

※「枝・梢」の語がない場合や、「花が」咲いている」の意がない場合は×。

F 「見たい」(1点)

※「見に行きたい」でもよい。

問三 5点

A (1点) B (1点) C (2点)

D (1点)

〔模範解答〕

格別に

風流な人で

一刻も早く花を見に行きたいと

花に心を奪われているから。

〔ポイント〕

A 「格別に」(1点)

※Bが正解していない場合は得点できない。

※「(風流心が)特に強い」等でもよい。

B 「風流な人で」(1点)

※「風流で・趣を解する人で・風雅の人で」等でもよい。

C 「一刻も早く花を見に行きたいと」(2点)

※「一刻も早く」はなくてもよい。「花を見たい」、もしくは、「花が散ることを気にして」の意があればよい。

D 「花に心を奪われているから」(1点)

※Cが正解していない場合は得点できない。

※「花に心を奪われている」は、「気が気でない・落ち着かない・心ここにあらず」でもよい。

※「聯句に集中できないから」は×。(なぜ聯句に集中できないのかを問うているから)

- A (2点) B (1点) C (1点) D (1点)  
「模範解答」 雨のために花見ができなくなったのは 残念だが、雨宿りのおかげで 釈迦念仏や礼讃を聞き、  
E (1点) 悟りを開く契機を得ることができたのは良かったということ。

「ポイント」

A 「雨のために花見ができなくなったのは」(2点)

※「雨のために花が散る」はあってよいが、「雨のために花見ができなくなった」がなくて「雨のために花が散る」しかない場合は【1点】。

B 「残念だが」(1点)

※Aが正解していない場合は得点できない。

※「残念だ」「憂けれ」の訳)は「つらい・いやだ・悲しい・困ったことだ」等でもよい。

※これ相当する表現がない場合は×。

C 「雨宿りのおかげで」(1点)

※DとEの両方が正解していない場合は得点できない。

※「雨が止むのをまつ間に・雨が降ったおかげで」等、DEのことに「雨」が作用したことが説明できていればよい。

D 「釈迦念仏や礼讃を聞き」(1点)

※「釈迦念仏や礼讃」は、「念仏」、または「礼讃」だけでもよしする。

※「聞き」が「唱え」等になっている場合は×。

※主体(＝女房達)は書いてあってもよいが、なくてよい。

E 「悟りを開く契機を得ることができたのは良かったということ」(1点)

※「のは良かった」はなくてもよい。

※「契機」は「きっかけ・機会」でもよい。これに相当する表現がない場合は×。

問五 (ア) 2点×2＝4点

- ① 完了 ② 反実仮想

「ポイント」

①

※「完了」以外は×。

※「完りよう・かんりよう」等、漢字のみで書かれていない場合は×。

②

※「反実仮想」以外は×。

※「反実かそう・反じつ仮想」等、漢字のみで書かれていない場合は×。

A (1点) B (1点) C (1点) D (1点)  
「模範解答」 日が暮れてしまったとあきらめて 今日見に来なかったなら、雨に降られる前の 美しい山桜の  
様子を 見られなかっただろう、今日見に来てよかった。  
E (1点) F (2点)

「ポイント」

A 「日が暮れてしまったとあきらめて」(1点)

※「暮れてしまった」は「暮れた・暮れてしまう」でもよい。

※「暮れてしまったから」のように「から・ので」という理由で「等が付いていてもよい。」

※「あきらめて」はなくてもよく、「言って・思っで」でもよい。

B 「今日見に来なかったなら」(1点)

※仮定表現になっていなければ×。

※「見に来なかった」は「来なかった」か「見なかった」でもよい。「花を・花見に」はあってもなくてもよい。

C 「雨に降られる前の」(1点)

※「雨に降られる」は「雨が降る・雨で散る」でもよい。

※「前」が「後」になっている場合は×。

D 「美しい山桜の様子を」(1点)

※「美しい」の様子」は「美しさ」でもよい。「美しい」の意がない場合は×。

E 「見られなかっただろう」(1点)

※「見ることはなかっただろう」でもよい。また、推量表現がない「見ることはできなかった・見ることはなかった」等でもよい。また、疑問表現となっている「見られたらどうか・見ることがあったか」でもよい。

F 「今日見に来てよかった」(1点)

※「今日見られてよかった・今日来てよかった」等でもよい。

Ⅳ (漢文) 採点基準 (合計 35点)

問一 8点

A 〇2点

B 〇2点

(模範解答) 戴十の妻の梁氏が、夫を殺した執事の主人に、

C ①〇2点

C ②〇2点

罪もない夫を殴り殺した執事を裁いてもらいたいということ。(8点)

☆各加点要素の加点の条件

A 「戴十の妻の梁氏が」(2点)

※「誰が」の内容。

○ 「戴十の妻の梁氏が」は、「戴十の妻が」「妻の梁氏が」「梁氏が」などで。

△ 「妻が」は△1点。

B 「夫を殺した執事の主人に」(2点)

※「誰に」の内容。

○ 「夫を殺した執事の主人に」は、「通事の主人に」でも○。

△ 「主人に」は△1点

※ 「通事に」は×0点。その場合、Cの内容も違ってくるので、Cも×0点。

※第二段落で、梁氏に対応しているのは「主人」である。

C 「罪もない夫を殴り殺した執事を裁いてもらいたいということ」(4点)

※ 「どのようなことを訴えたのか」の内容。以下の2点に加点。

① 「執事が罪もない夫を殴り殺したこと」

② 「執事を裁いてもらいたいということ」

① 「執事が罪もない夫を殴り殺したこと」(2点)

○ Bに「夫を殺した」とあれば、①は「おたくの執事が」だけでもよい○。

※ Bに「夫を殺した」が無い場合は、ここで「夫を殺した」件に触れていない場合は①は×。

○ Bに「夫を殺した」とあれば、①は「事の次第を訴え」のようでも○。

② 「執事を裁いてもらいたいということ」(2点)

○ 「裁いてもらいたい」は、「罰してほしい」「引き渡してもらいたい」「殺させてほしい」「かたきを討たせてほしい」などでも○。

問二 7点

A〇3点

B〇4点

(模範解答) たといこの執事を殺したとしても、死んでしまったあなたの夫に何の得があるうか。(7点)

☆各加点要素の加点の条件

A 「たといこの執事を殺したとしても」(3点)

※ 「たとひ此の人を殺すも」の訳。

△ 「此の人」が「執事／通事」であることが明示されていない場合は▲2点減点で△1点。

↓ 「たとえこの者を殺したとしても」は△1点。

○ 「たとい(たとえ) この執事を殺したとしても」は、「この通事を殺したとしても」「この執事を罰して死刑にしても」「この執事を望み通り殺しても」などでも○。

▲ 「この執事を自分の思い通りに殺すことが」のように、**仮定の訳し方にとっていないものは▲2点減点。**

B 「死んでしまったあなたの夫に何の得があるうか」(4点)

※ 「死者に於いて何の益あらんや」の訳。

△ 「死者」が「死んだあなたの夫(戴十)」であることが明示されていない場合は▲2点減点で△2点。

↓ 「死んでしまった者に何の利益があるだろうか」は△2点。

▲ 「死んだ」のであることが欠けているものは▲2点減点。

↓ 「戴十には何の得にもならないだろう」は▲2点減点で△2点。

○ 「死んでしまったあなたの夫に何の得があるうか」は、「死んだ戴十に何の利益があるだろうか」「亡くなった戴十にとって何の利があるのか」「死んでしまった戴十には何の利益もないではないか」などでも○。

○ 「死んだ戴十の弔いになるだろうか」のような意識でも○とする。

▲ 文末を「〜ということ」のように説明の形にしているものは▲1点減点。

問三 5点

(解答) あにりをいふ(う)べけんや (5点)

※ 完答のみ〇

× 「あにりを(と)いふべし」「あにりをいふべからんや」などは×0点。

問四 5点

A〇3点

B〇2点

(解答) 但得<sup>レ</sup>使<sup>ニ</sup>此奴償<sup>レ</sup>死、我母子為<sup>ニ</sup>乞食<sup>一</sup>、亦甘<sup>レ</sup>分。(5点)

○ A・Bそれぞれ完答のみ○。

× 送り仮名をつけてあるものは×0点。

A〇2点

B〇2点

(模範解答) 主人が提言した賠償のための牛や白銀には目もくれず、夫を殺した執事を自らの手で殺して

C〇3点

D〇3点

恨みを晴らそうとする姿勢を、烈婦であると評している。 (10点)

☆各加点要素の加点の条件

A 「主人が提言した賠償のための牛や白銀には目もくれず」 (2点)

※ 主人からの賠償の提言を断った点。

○ 「主人が提言した賠償のための牛や白銀には目もくれず」は、「執事の主人からの賠償案を受け入れず」「主人の金銭的懐柔にも応ぜず」「主人が与えようとした償いの品を断固拒否し」などでも○。

B 「夫を殺した執事を自らの手で殺して」 (2点)

※ 「刀を取りて自ら之を殺」した点。

○ 「夫を殺した執事を自らの手で殺して」は、「執事を自分の手で殺し」「仇を殺して」「自らの手で仇を刺殺し」などでも○。

C 「恨みを晴らそうとする姿勢を」 (3点)

※ 「恨みを晴らした」「仇を討った」た点。

○ 「恨みを晴らそうとする姿勢を」は、「恨みを晴らしたのを」「仇を討ったのを」「敵を討つ意思を貫いた」「復讐を晴らした」「毅然として復讐を遂げた」などでも○。

※ A～Cまでのいずれかのポイントが欠けていて、次のイ・ロ・ハのような要素が入っているものについては、どれかがあったらプラス2点加点する。(イ・ロ・ハのうち2つ以上あっても加点は2点。)

イ 「殺された夫の死体をついで主人の邸に投げ込む」

ロ 「相手の身分の高さに動じずに訴える」

ハ 「殺した相手の血をすすり」

D 「烈婦であると評している」 (3点)

※ 梁氏に対する評価

○ 「烈婦であると評している」は、「烈女であると評している」「気性の激しい女性であると評している」「気丈な女性と評している」「毅然とした人物と評価している」「意志の強固な人物として評している」などでも○。

△ 「肯定的に描いている」は△1点。

※ 「正義感の強い人物として描いている」「家族思いの女性として評価している」「過激な人物と評している」「冷酷で残忍な面もある人物と評している」「合理性よりも感情を優先する人物と評している」などは不可。